

10月1日と2日、日比谷公園で開かれたグローバルフェスタで私はHANDSのブースの内側に立つ機会を与えていただいた。HANDSに入会して2年目、まだ活動の全貌もしっかり把握していない身でありながら…。

2日目は時折小雨に降られたが、初日はまずまずのお天気。ブースの場所は会場の左奥にあり、余り恵まれた場所ではないにしても、人通りが全く絶えるということにはなかった。

ティナラク織りに目を留めてくれる人には、資料を繰りながら製作工程を説明したり、製品を手取る人には「軽くて丈夫ですよ」とか「お似合いですよ」とか声をかけて勧めた。買っていただくととても嬉しく、お商売をされている人の喜びをちょっぴり味わうことができた。しかし、現地のことに興味を持った方が、突っ込んだ質問をしてこられると私はもうお手上げ。即、山崎さんや九島さん、相田さんにバトンタッチして対応していただく。特に九島さんはピラード民族の衣装を着けて、道行く人の注意をひいたり、タイミングよく声掛けをされるので、私ももう少し積極的に声をかけねばと思ったことでした。



1日目の午前中には現在ICUに留学中のエルリックさん（COWHEDのジェマさんの弟）が二人のお友達を連れてブースを訪問してくださり、山崎さんや九島さんと懐かしそうに話されていた。午後には全く思いがけないことが起きた。それはあの藤原紀香さんがテレビの取材のため左隣のブースに顔を出されたことである。周りにはもう黒山の人だかり。紀香さんは微笑を絶やさずお隣の代表者の説明を熱心に聞いておられた。予想以上に背が高くスレンダー。紫色のワンピースがお似合いであった。

隣のブースは“コペルニク”と言う名の団体（コペルニクスでは無い）で、水の運搬に使う容器に関して正に“コペルニクス”的発想で作られた容器と、従来の容器の性能を比較できるブースであった。実は私は10年近く日本水フォーラムというNPOでボランティアをしているので、この新型容器のことは写真で見て知っていた。そしてそれがアフリカの女性や子供を永く苦しめていた「水運びの苦役」から解放するのにどんなに役立っているかということも。それはいわば大きなドーナツのような形をしており、真ん中に通された柄を引っ張ることで、40リットルの水を何kmも楽に運べるものであった。私は山崎さんを誘って、水が18リットル入った従来の容器を持ち上げるのと、40リットル入ったその容器を実際に引っ張って、比べてみた。違いは言うまでも無い。その容器は実に多くの人々を救う一大発明だと実感できた。

丸1日と2日目は13時半までのお手伝いであったが、見知らぬ人と製品を通して会話を交わす楽しさや、ものを買っていただく喜びのほか、思いがけないことを二つも体験させていただくという大変有益な2日間であった。

#### 「よこはま国際フェスタ 2011」報告

23日(日)は穏やかに晴れて、出展者、来場者ともに雨で中止となった1日目の分も楽しもうと会場の象の鼻パークは終日にぎわいをみせました。HANDSのブースもティナラク製小物やビーズ製品を中心に予想以上の売り上げがありました。同じフィリピンのカビテ州で有機農業に取り組む村を支援しているという学生さんなど今年も多くのお会いをいただきました。

(山崎)

